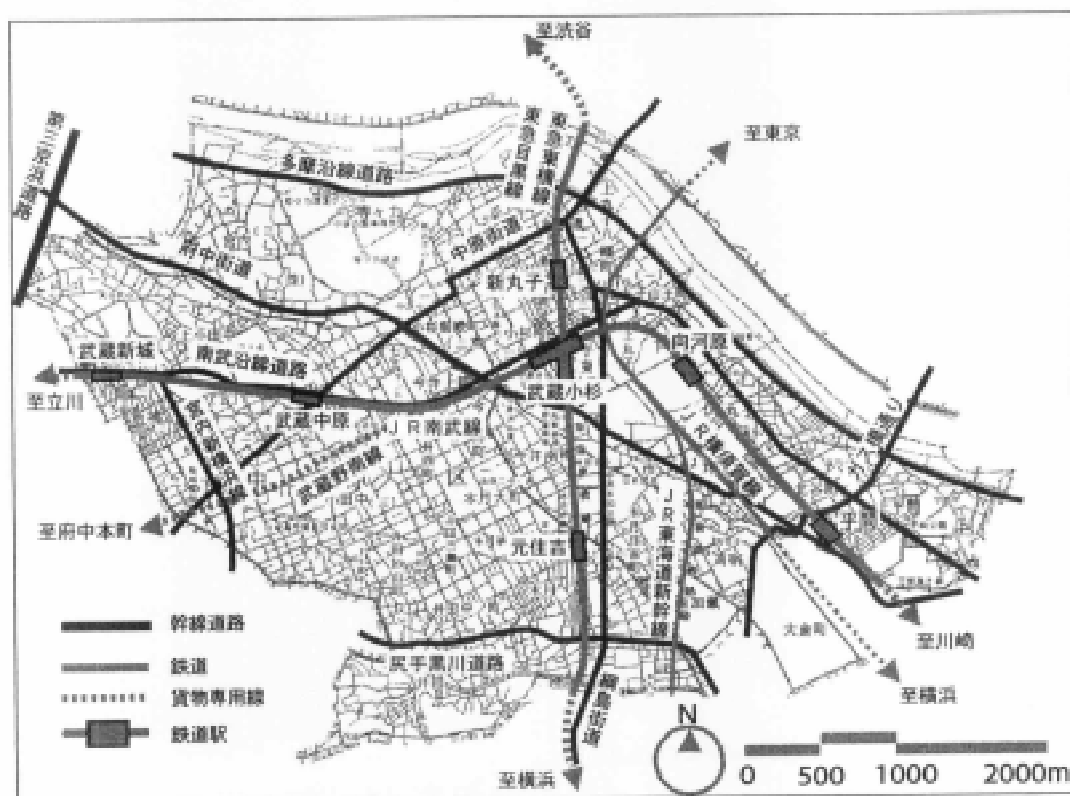


II-4. 交通

1. 中原区のネットワーク

- ・ 中原区を通る鉄道は、東京都区部と横浜を結ぶ東急東横線、東京都立川市と川崎市臨海部を結ぶJR南武線があります。さらにJR横須賀線、JR武蔵野南線（貨物）、東海道新幹線も区内を通過していますが、区内に駅はなく、通過するのみの路線となっています。
- ・ また、東京都区部から武蔵小杉駅までの区間については、埼玉県南部、東京都区部への直通電車が運行されるようになった東急目黒線が併走し、さらに、元住吉駅で東急東横線と接続する川崎市縦貫高速鉄道の検討が進められています。
- ・ 幹線道路は、東京と湘南方面（平塚市中原）を結ぶ中原街道（丸子中山茅ヶ崎線）が区の東西を斜めに横切り、また丸子橋交差点で中原街道から南方面に分岐し、横浜市中心部に向かう綱島街道（東京丸子横浜線）があります。さらに、川崎市の縦断方向を結ぶ軸として、川崎中心部、東京アクアラインへ向かう府中街道（鹿島田菅線）や、南武沿線道路、尻手黒川道路が整備されています。
- ・ 中原区の幹線道路網の特徴のひとつに、東京から横浜方面へ延びる自動車専用道路が区の中心部を縦貫していないことがあり、わずかに第三京浜道路が区の北西部で区界に接しているにとどまっています。
- ・ また、中原区全体の交通網の特徴としては、東京へのアクセスを中心とする交通網と川崎市内を縦断方向につなぐ交通網が格子状に組み合わさって交通網を形成していることがあげられます。

■中原区の交通ネットワーク



2. 鉄道の利用状況等

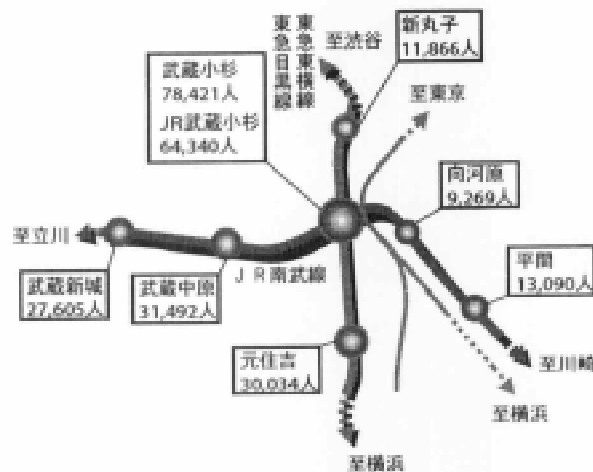
(区内の鉄道駅の乗降客数)

- 区内各駅の平成11年度の乗降客数は、武蔵小杉駅で東急線・JR線を合わせて1日に14万人に達しており、区内で最大の乗降客数となっており、その他の駅は3万人から1万人程度となっています。これを平成8年の乗降客数と比較すると、武蔵小杉駅を除いて190%から95%と、減少傾向にあります。

(通勤における利用状況)

- 中原区の通勤における鉄道利用については、区民の内の就業者の65%が区外に通っており、特に比率が高い通い先としては、市内では川崎区、市外では東京都特別区部（23区）、横浜市があげられます。このことから、中原区がベッドタウン的住宅都市の性格を持っていることを示していると考えられます。

■区内各駅の乗降客数



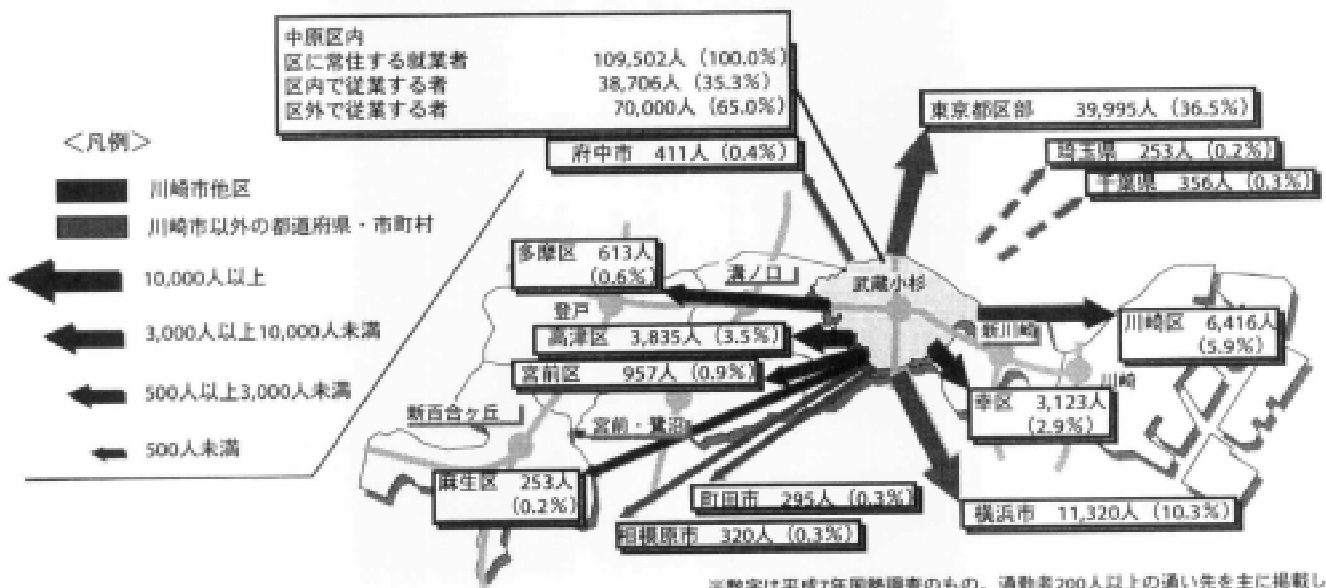
※乗降客数は平成11年のもの
資料：総合企画局企画部統計情報課

■常住地による従業・通学市区町村別15歳以上就業者数及び通学者数

居住地、従業・通学市区町村	総数	就業者	通学者
中原区に常住する就業者・通学者	121,107	109,502	11,605
自区で従業・通学	41,428	38,706	2,722
自宅	8,606	8,606	0
自宅外	32,822	30,100	2,722
自市内他区で従業・通学	16,454	15,197	1,257
川崎区	6,969	6,418	551
幸区	3,358	3,123	235
高津区	4,018	3,835	183
多摩区	786	613	173
宮前区	1,005	957	48
麻生区	318	253	65
他市区町村で従業・通学	63,227	55,599	7,628
市内			
横浜府	13,436	11,320	2,116
相模原市	491	320	81
市内その他市町村	1,409	1,178	231
他県			
埼玉県	357	253	104
千葉県	459	356	113
東京都	44,252	39,895	4,357
特別区			
府中市	416	411	5
町田市	481	295	186
東京都その他市町村	1,705	1,189	516
その他の都道府県	189	173	16

※表に掲載しているものは総数で200人以上の川崎市以外の都道府県・市町村
資料：平成7年国勢調査

■中原区に常住する15歳以上の就業者の主な通い先



※数字は平成7年国勢調査のもの、通勤者200人以上の通い先を主に掲載した。
資料：総合企画局企画部統計情報課

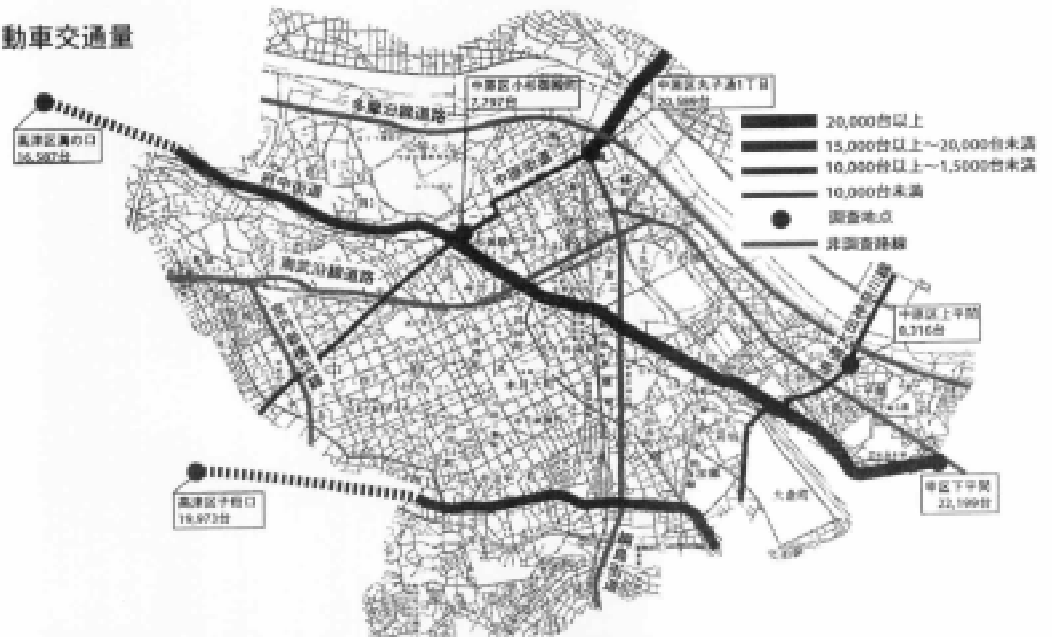
3. 道路の利用状況等 (交通量)

- ・ 中原区の道路交通量（平成9年度調査）をみると、綱島街道（東京丸子横浜線）、府中街道（鹿島田菅線）、尻手黒川道路において、それぞれ12時間に2万台前後の交通量があります。

(バス路線)

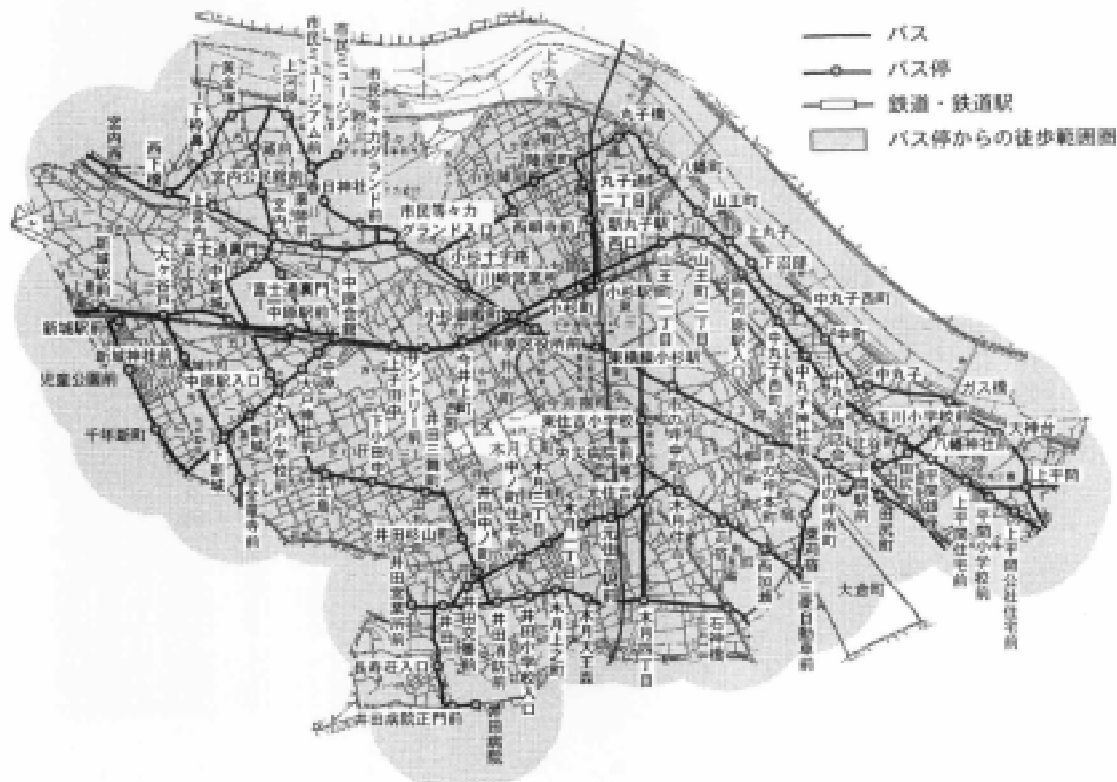
- ・ バス路線の敷設状況をみると、区内のほぼ全域が網羅されており、公共交通を使い目的地まで移動することが可能となっています。

■主要幹線道路の自動車交通量



※平成9年度全国道路交通情報調査・一般交通量を中心に市内において平日の午前7時から午後7時までの12時間にのりり実施した主要道路の交通結果の一部を表したものです。
資料：建設局総務部企画課

■バス路線図



II-5. 自然環境

1. 河川

- ・多摩川が、区の北西部から東部にかけて流れており、東京都と神奈川県との境界となっています。区内を流れる河川は3本あり、江川は区西部の高津区との区境を、江川が合流する矢上川は横浜市港北区と接する区南部を流れ、区中央部で二ヶ領用水から分岐する渋川は区南東部の幸区及び横浜市港北区の境界となる場所で矢上川に合流しています。

2. 水路

- ・二ヶ領用水が、府中街道沿いに区西部から区中心部を通り区南東部にかけて流れています。

3. 緑地・緑道

- ・多摩川に面して多摩川緑地があり、区北部には、等々力緑地、区南部には井田長瀬緑地があります。また、区東部、多摩川周辺に市ノ坪緑道、中丸子緑道、平間緑道等が整備され、区中央部の二ヶ領用水沿いには今井上町緑道が整備されています。
- ・また、井田山には、中原区市民健康の森が整備され、市民ボランティアによる管理活動が行われています。

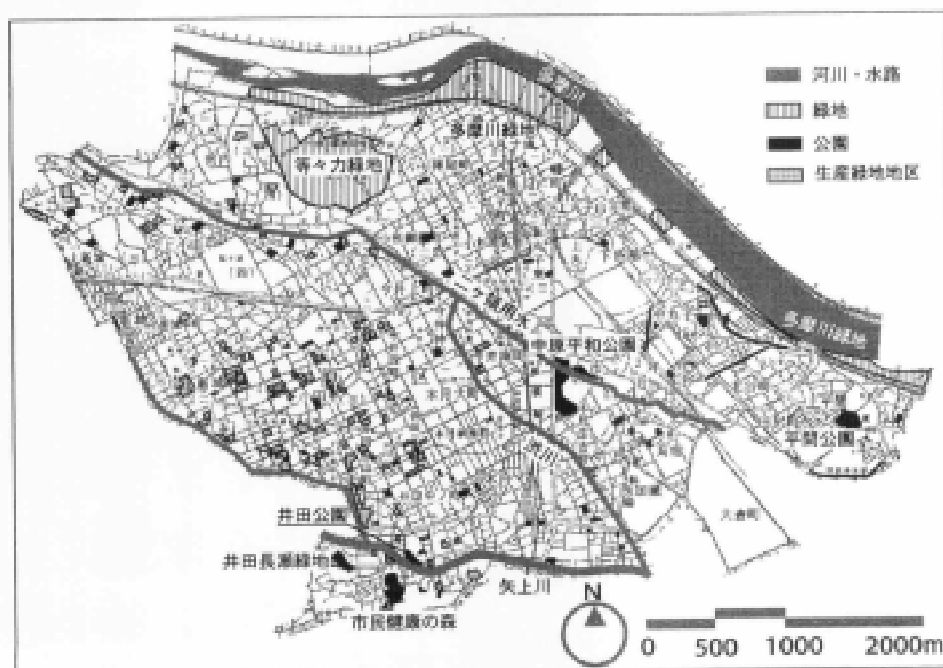
4. 公園

- ・主な公園として、区中央部に位置する中原平和公園（地区公園）、南西部の平間公園（近隣公園）があり、その他に78ヶ所の街区公園が点在しています。

5. 生産緑地地区

- ・生産緑地地区は、区西部を中心に広がっており、区南西部の下小田中に多く点在している状況にあります。

■ 中原区における自然環境の分布状況



II-6. 施設の分布状況

1. 全市的施設

- ・ 中原区は川崎市の中心部に位置することもあり、国際交流センター、市民ミュージアム、川崎市平和館などの全市的施設が立地しています。

2. 医療・福祉施設

- ・ 医療施設は、井田2丁目の市立井田病院、小杉町の日本医科大学付属第2病院、木月住吉町の関東労災病院、小杉3丁目の聖マリアンナ医科大学東横病院等が立地しています。
- ・ 福祉施設は、区内に広く分布していますが、特に井田3丁目は、養護学校や老人福祉施設などが集中して立地しています。

3. 教育・文化施設

- ・ 小杉周辺に中原市民館・図書館が立地しており、その周辺には、生涯学習プラザや法政大学、日本医科大学の立地もみられます。

4. その他施設

- ・ 等々力緑地内に、市営等々力陸上競技場やとどろきアリーナ等のスポーツ施設が、また、小杉周辺には総合自治会館や中小企業・婦人会館、中原駅前にはエポック中原などの市民利用施設が立地しています。

■ 中原区における主な施設の分布状況

